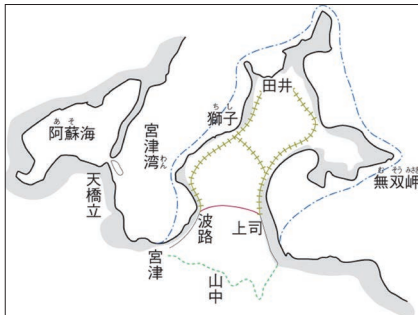


8

きょう土の偉人いじんと天橋立あまのはしだて

1

きょう土の偉人



④ 栗田から宮津への道



④ 売間九兵衛

うるまくへえくんだ
売間九兵衛と栗田トンネル

昔、栗田から宮津に行くには、けわしい栗田峠とうげを通らねばなりませんでした。峠を通る人々の苦勞くろうを見かねた波路村はじ（今の宮津市波路）の売間九兵衛たちは、自分の財産ざいさんをなげうって、峠の上に池をつくって水をため、ほった土を水といっしょに流すやり方で栗田峠を切り下げる工事を計画しました。しかし、工事のお金も少なくなってしまうようにいかず、九兵衛たちは京都府きょうとふに対して栗田峠切り下げ願ねがいを出しました。

ちょうどそのころ、京都から宮津まで車道（馬車などが通れる道）を通す計画が始まったことから、九兵衛たちは北垣国道京都府知事きたがきくにみちに、京都府の工事として進めるよう要望ようぼうしました。

調べる

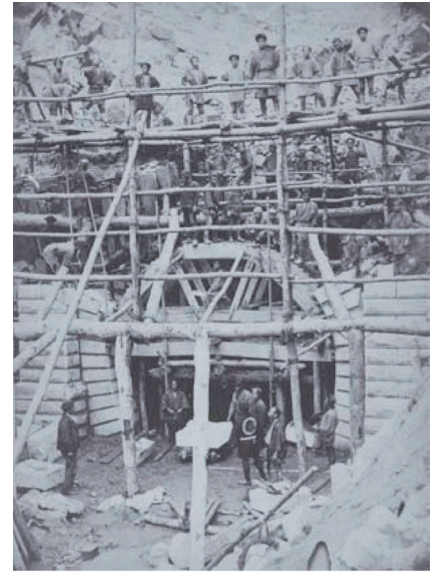
わたしたちのまち（きょう土）をひらいた人々を調べてみましょう。

やがて計画はトンネル建設に改まり、
1884（明治17）年に工事が始められました。
かたい地盤をくりぬくむずかしい工事でしたが、
1886（明治19）年、ついに旧栗
田トンネル（撥雲洞トンネル）が完成しました。

トンネル工事に出てきた花こう岩を用いて、
今の宮津市役所横の大手橋が石の橋（め
がね橋）にかけかえられました。当時、「丹
後の宮津に過ぎたるものは、波路のトンネル
とめがね橋」といわれたほどりっぱな橋でした。

旧栗田トンネルの入り口には、1909（明
治42）年、当時の栗田村、城東村、宮津町
の沿道の運送業者の寄付によって、人々のた
めにつくした売間九兵衛をたたえて石ひが建
てられました。

旧栗田トンネルは、自動車の行き来がはげ
しくなるにつれ、たいへんせまくなり、すれ
ちがうこともできなくなりました。そこで国
は、1970（昭和45）年に新しいトンネル
を完成させました。このトンネルにより安全
な通行ができるようになりました。



📍当時のトンネル工事の様子



📍売間九兵衛の石ひ



📍旧栗田トンネル（撥雲洞トンネル）

旧栗田トンネル

はば	約 4.7 m
高さ	約 4 m
長さ	126 m



📖 書物を読む涼庭のどうぞう

らんぼうい しんぐうりょうてい 蘭方医 新宮涼庭

涼庭は江戸時代後半の1787（天明7）年、丹後国由良（今の宮津市由良）のまずしい家に生まれましたが、おさないころから地元由良の松原寺で読経や書など一生けん命に勉学にはげみました。

1810（文化7）年、23才のときに涼庭は蘭学を学ぶため長崎へ行き、オランダの進んだ医学を熱心に学びました。

その後、長崎での修業を終えてふるさとに帰った涼庭は、京都の室町で蘭方医として開業し、深夜の急な病人も、こころよくしん察し、多くの人にされたといわれています。

1839（天保10）年、涼庭は京都東山の南禅寺近くに医学伝習所の順正書院を建てました。順正書院では医学の教育を行うほか、家がまずしくとも学ぶ意よくのある者やいっぱんの民しゅうにも無料で講義をし、医学の人材育成につとめました。ここで学んだ医学生たちが後の京都府立医科大学のきそをきずきました。

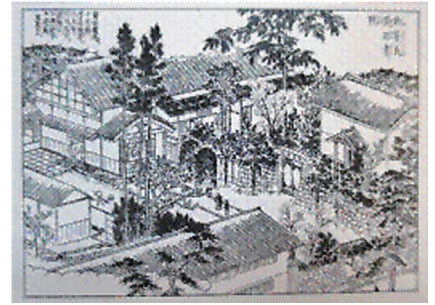
年れい	できごと
11才	おじ（福知山の医師）の家に奉公しながら漢方医学を学ぶ。
16才	医学を学ぶため江戸に行く。
18才	由良にもどり、漢方医を開業する。
23才	長崎で蘭学を学ぶ。
32才	京都で蘭方医を開業する。
52才	順正書院を建て、医学教育などを行う。

📅 新宮涼庭の年表

涼庭は^{いし}医師として多くの人の命をすくったほかに、オランダ語の書物を日本語にやくす仕事や医学書を書く仕事によってたくさんのお金をたくわえることができました。しかし、そのお金を自分や身内の生活に使うだけでなく、お金がなくて苦しむ地方の大名や医学をこころざす人のためにも使いました。順正書院には、そのような涼庭に助けてもらった大名や学者たちも多く集まり、にぎわっていたようです。

時代で^{もっと}最も進んだ蘭方医となり多くの人々の命をすくい、京都の医学のはってんにつくした涼庭でしたが、1854（^{あんせい}安政元）年、68才でなくなりました。

1928（昭和3）年には、涼庭の^{はたら}働きをた^{つた}たえ後世に伝えるために、順正書院の庭に涼庭のどうぞうがすえられました。その後、江戸時代に由良が^{たなべはんりょう}田辺藩領（今の^{まいづる}舞鶴市）であったえんで、どうぞうは1963（昭和38）年に舞鶴市にきぞうされました。今は、舞鶴市^{きたすい}北吸の舞鶴メディカルセンターのげんかん前にすえられています。この涼庭ぞうはふるさと由良の方角を向いているそうです。



📍 当時の順正書院



📍 今の「順正」（もと順正書院）今は、湯どうふや京料理を味わう料理店「順正」としてにぎわっています。



📍天橋義塾の跡

自由民権運動と天橋義塾

宮津みやづ小学校の校庭に「天橋義塾あとの跡」という石ひがあります。ここは、廃藩置県はいはんちけんをはじめとする明治維新めいじいしんの大きな改革かいかくで仕事を失ったうしな武士ぶしの子どもたちが学んだ天橋義塾のあった場所です。

天橋義塾については、資料しりょうによると、次のように記録きろくされています。

「明治の世をむかえて、小学校教員の養成ようせいと新しい政治せいじを求めもとる自由民権ねがの願いにこたえる場所として、一時は100名をこえる武士の子どもたちが学んだが、全国の自由民権運動せいふが政府せいふに取りしまられるようになり、小室信介むろしんすけや沢辺正修さわべせいしゅうなど開校につくした人があいついでなくなったこともあって10年後、天橋義塾はへいさに追いこまれた。」

小室信介や沢辺正修の生まれた家は、宮津市内やなぎなわの柳縄手てにありました。宮津小学校の児童じが通学路どうに利用つうがくろしている大手川りょうにかかる中橋おおての近くなかです。

廃藩置県 1871（明治4）年、明治政府は江戸時代に置かれた藩を廃止して県を置いた。

明治維新 それまでの武士による幕府政治を改め、新しく始まった政治の改革をいう。「廃藩置県」や「殖産興業」（産業をさかんにして国の力を高める）などをいう。

自由民権運動 明治時代になって、新政府による政治をひはんした運動で、国会開設のきっかけともなった。

きょう土の偉人

地いきの産業や教育、文化のはってんにつくした先人を調べ、その業績を学ぶことによって、きょう土のりかいを深め、地いきの願いやしょうらいについて考えを深めましょう。

くろだ うへい 黒田 宇兵衛

明治時代に宮津町長や府会議員などをつとめた。政界や地方財界で活やく。丹後鉄道・宮津電灯の会社設立にも関わった。1855（安政2）年、宮津市白柏生まれ。

しおた ひろしげ 塩田 広重

日本がん研究など医療につくした。1873（明治6）年、宮津市柳縄手生まれ。

まえ お しげざぶろう 前尾 繁三郎

衆議院議員や国務大臣、衆議院議長をつとめて国政につくした。読書家として知られ、その蔵書は宮津市立図書館におさめられている。1905（明治38）年、宮津市住吉生まれ。

ほそみ すくる 細見 卓

国際通貨問題で世界経済はってんにつくした。1920（大正9）年、宮津市宮村生まれ。

通貨 それぞれの国で使われているお金のこと。

ルイ・ルラブ神父

宮津にカトリック教会をつくったフランス人神父。建物の外観はフランス風で、中はめずらしいたたみじきになっている。現役の教会としては貴重な建物。1857（安政4）年、フランスのサンテチアンヌ生まれ。

しらすぎ かめぞう 白杉 嘉明三

育英資金として多額の寄付などにより市政のはってんにつくした。1876（明治9）年、宮津市宮本生まれ。

はやいし おさむ 早石 修

アミノ酸についての生化学の研究で世界的にすぐれた業績を残した医学者。1920（大正9）年、宮津市江尻生まれ。

やの にろう 矢野 二郎

1958（昭和33）年から26年間にわたり宮津市長として市政のはってんにつくした。1922（大正11）年、宮津市住吉生まれ。



京都府の天橋立



広島県の宮島



宮城県の松島

日本三景「天橋立」

国の特別名勝である「天橋立」は、京都府北部にある宮津湾に面し、丹後半島のつけ根にのびる松なみ木とすなはまの美しい砂州です。2007（平成19）年には「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されました。天橋立は江戸時代に「安芸の宮島」（広島県）「陸奥の松島」（宮城県）とならぶ日本三景の一つとして有名になり、昔から多くの人々が行き来し、美しい景観を楽しんできました。

天橋立四大観

日本三景のなかでも、白砂青松といわれるすなはまや松林のある天橋立は、高台から「またのぞき」をすると天と地がぎやくになって、天にかかる橋のように見え、その美しい景色を楽しむために、全国各地から年間320万人（2019年）もの観光客がおとずれます。

天橋立は四方のどの方角から見ても美しく、それぞれ「飛龍観」「昇龍観」「一字観」「雪舟観」の四大観と名づけられて多くの人々に親しまれています。

天橋立四大観



👉 飛龍観



👉 昇龍観



👉 一字観



👉 雪舟観

天橋立ビューランドの方向から見る「飛龍観」は、龍が飛び立つように見え、傘松公園の方向から見る「昇龍観」は天に向かって龍がのぼっていくように見えます。また、大内峠から見る「一字観」は漢字の「一」のように見えることから、獅子崎の方向から見る「雪舟観」は雪舟がえがいた「天橋立図」(国宝)と同じように見えることから名づけられました。

調べる

四大観は四方のどの方角からながめた景色でしょうか。

天橋立の地形はどうやってできたのかな。



👉 天橋立の地形



このサイトを見ると
天橋立について知るこ
とができるよ。



[京都府丹後土木事務所、「天橋立を知って守ろう！ 天橋立 for Kids」]



📍松がれをふせぐ薬をまく様子

あまのはしだて 天橋立を守る取り組み

今から 70 ~ 80 年ほど前、^{みやづわん}宮津湾を整び
する中で天橋立のすなはまがどんどんやせ
細っていきました。そのやせ細った海岸線の
すなはまを回復させるために、今ではすなを
^{かいふく}人工的に移動させるサンドバイパス工法を
^{じんこうてき}使ってすなはまを守っています。

^{とくべつめいしょう}特別名勝天橋立は松なみ木とは切っても切
^{まつ}れない関係にあります。しかし、近年、その
松がかれるひがいがあり、松の^{けいかん}景觀を守るた
めに、松がれをふせぐ薬をまくようになりました。松がれひがいをもたらす病原体を運ぶ
マツノマダラカミキリが松につかないように
するために行われるのです。

サンドバイパス工法とは



[京都府土木建築部港湾課、「未来につなごう美しいふるさとの浜 天橋立」]

昔は松のえだや葉を、家庭の燃料として使っていました。今では地面に落ちた松のえだや葉が土の栄養となり、松以外の植物が育ちやすいかんきょうになっています。また、松が根を広くはらなくなり、バランスが悪くなっています。

松なみ木が海に美しくはえる阿蘇海は、昔からいわしやあさりなど多くの魚や貝がとれましたが、近年ヘドロが海底につもるようになり、水をきれいにして美しい海にするさまざまな取り組みも行われています。

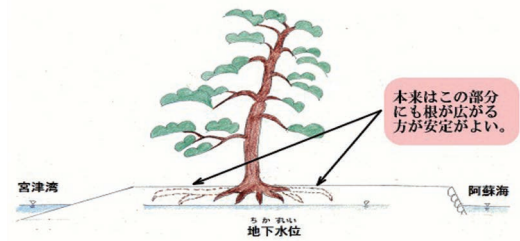
天橋立は、江戸時代には智恩寺が管理をしてきましたが、明治時代からは国の所有となって、今は京都府丹後土木事務所が管理をしています。

また、ふるさとの財産として天橋立を守ろうと「天橋立を守る会」をはじめ多くの人々によって、海岸のごみや下草を取りのぞく活動が行われています。

このように多くの人々によって天橋立の美しい景観が守られています。

[京都府丹後土木事務所、「天橋立を知って守ろう！ 天橋立 for Kids」]

天橋立の松の状態



天橋立の松の状態 [京都府丹後土木事務所、「天橋立を知って守ろう！ 天橋立 for Kids」]



土の栄養が多いと松は育ちにくいだね。

天橋立のれきしについて調べてみよう。



天橋立のれきし



地いきボランティアの活動

天橋立のかんきょうを守るために、わたしたちはどんなことができるでしょう。



❶ 雪舟「天橋立図」(京都国立博物館蔵)
2020年、京都府立丹後郷土資料館に
約40年ぶりにてんじされたときの様
子です。

調べる

「e 国宝」を見て天橋立図を
さがしてみましよう。



(国立文化財機構「e 国宝」)

水墨画 中国から伝わった、墨一色
を使って風景などをえがいた絵。



❷ 与謝野寛と妻の与謝野晶子の歌ひ

調べる

宮津市には歌ひ、文学ひも
たくさんあります。どんな人
たちがおとずれたのか調べて
みましよう。

あまのはしだて 天橋立と文化

国のかたちがかたまってきた奈良時代には、阿蘇海に面した天橋立を見わたす府中には、丹後国の政治や文化の中心であった国府がつかれ、国分寺なども建立されました。また、平安時代に入ると有名な歌人であった小式部内侍は、「大江山 いくのの道の 遠ければ まだふみもみず 天の橋立」と歌い、小倉百人一首にも選ばれています。

室町時代になると、足利幕府の三代将軍義満は、「日本三文殊」に数えられる智恩寺(宮津市文珠)や天橋立に6度もおとずれています。また、この時代に水墨画をえがいた雪舟も「天橋立図」(国宝)をえがいて天橋立を広くしょうかいしました。

江戸時代に入ると、宮津は城下町、港町として急速にはってんし、浮世絵などにもえがかれ、多くの人々が智恩寺や成相寺など寺や神社などのお参りにおとずれました。

明治から昭和にかけて絵はがきや写真でしょうかいされるようになり、昭和に入ると、歌人の与謝野寛や妻の与謝野晶子がおとずれ、歌を残しています。

天橋立についての話

このお話は、1994（平成6）年に市政40周年を記念してつくられた紙しばいです。それぞれの学校の図書館にもあるので、ぜひ続きを読んでみましょう。また、ほかにも天橋立についてのお話がないか、調べてみましょう。



④「天の掛け橋」(みやづ昔話紙しばい)

● 天の掛け橋（みやづ昔話紙しばい）

遠い遠い大昔、天の上の高天原^{たかまがはら}にアメノミナカヌシという神がお生まれになった。しばらくしてイザナギノミコトという男神とイザナミノミコトという女神がお生まれになった。

二人はアメノミナカヌシノカミからりっぱなホコをいただき、雲の上にかかっている天の浮き橋からそのホコで下界のドロをぐるりぐるりとかき回した。

そして、さっと引き上げるとホコの先からしずくがポタポタと落ちた。するとそこがみるみるうちに固まり、今の日本ができあがった。

高天原の神々は美しい国ができたと大よろこび。

「みごとな美しい国だ。ぜひとも行ってみたい。」

と下界の日本の国を見つめていた。ある日、

「なんとかアメノミナカヌシノカミ様にたのんで、おりる掛け橋をつけてただこう。」

とみんなでお願いに上がった。するとアメノミナカヌシノカミは、

「つくってあげるが、ほんとうに大事なときだけ、神だけが使う橋だよ。他の者が使うとすぐこわれてしまうからね。」

と念^{ねん}をおして掛け橋をおつけになった。

[続く]